

# かがやきプラス 中学生 家庭版



## テーマ 親子のコミュニケーション

### 「思春期との対話」思春期とは、どのような状態なののでしょうか？

多賀クリニック院長 <sup>たが かずゆき</sup> 多賀 千之

子供たちは赤ちゃんから幼児期にかけて親の後追いをし、学童期には「ねえ聞いて聞いて」と親に話しかけます。しかし、思春期（およそ中学校から高校時代）には、親と話したがりません。話しかけると「別に」とか「忘れた」ばかりで、くっ付こうとすると「ウザい」と言われます。何を考えているか分からず、対応に苦慮します。

すなわち、思春期は親の籠（かご）の中で困われている状態から、水を蹴散らし、バタバタ羽ばたき、周りに水を飛び散らせる時期なのです。その時期がなければ、大空を飛翔することはできません。実のところ、私たち親も通って来た道なのです。

思春期の子供は親と話したがりません。しかし、彼らはこの時期、自分らしさが確立され、類は友を呼ぶ時期ですから、親には「別に」とか「忘れた」としか言わなくても、友達に話しています。

ここで重要なことは、思春期は“自分を見てくれているか確認している時期”でもあるということです。小さい子が親に向かって「見て見てて」というように、人はどの時期であっても見ていて欲しいのです。そして、ほめて欲しい、認めて欲しいのです。思春期の子供は“見てくれているか確認している”と同時に“見られていることを意識する”ようになります。結果、これが犯罪防止の大きな支えになっています。昔から「お天道様が見ている」という言い方で、人の良心を引き出そうとしました。これは本当に「両親が見ている」ということから経験し、それを意識の中に刷り込むことなのです。

\*\*\*\*\*

さて、「別に」とか「忘れた」としか言わない思春期の子供に対して、親はどのように対応したらよいのでしょうか？

#### ①大人扱いすることがコツ

親としては、ちょっと大人扱いすることがコツです。子供たちに「どうだったの？」と尋ねるのをやめて、親自身

の身の上話をしてみましょう。「お母さん、今日は町内会でこんなことがあって嬉しかったの！」とか、「お父さんは仕事でこんなことがあったけど、お前は思う？」とか。誰しも、身の上話は信用している人に対してしますよね。子供たちは親に信頼された・認められたと感じます。すると、自然に自分の身の上話を始めます。

#### ②明日言えればいいじゃない作戦

ここで最も大切なことは“話を聞く”こと、傾聴です。一度考えてみましょう。私たち親は子供の話を本当に聞いているのでしょうか？ 大人はたいていの場合、次に自分が何を言うかを考えながら、人の話を聞いています。特に子供との会話においては、「親としてこれだけは言っておかなければ」とか「この際だから以前言えなかったあのことを言っておこう」とか考えながら聞いています。これは言うことを考えているのであって、聞いているとは言いません。では、どうしたら本当に話を聞くことができるのでしょうか？



相手の話、特に子供の話を聞く時には、『明日言えбайいじゃない作戦』を使いましょう。今ここで絶対に言うておかなければならないことはまずありません。自分が「言わなければならぬ」と思っているだけです。そこで、「言いたいことは明日言おう」と決めて会話をします。するとどうでしょう、絵本の読み聞かせを聞くように、相手の表情がよく読め、相手の意図がスーと入ってきます。そして、翌日、「私は昨日のあなたとの話から、いろいろ考えたんだけど、これだけは伝えておくわ」と自分の言いたいことを子供に伝えます。半日～1日の思考期間がありますから、親の言いたい・言わなければならぬことは数分の一に減っているでしょうし、感情的にならずにしっかりとした構築で話すことができます。子供にすれば、「親はあれからずーと自分のことを考えてくれていたんだ(見てくれたんだ)」と意識します。

### ③親から子へ話して欲しいこと

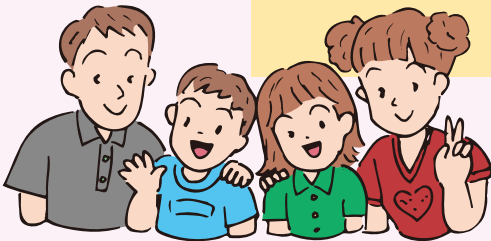
聞くことばかりを重要視しましたが、親から子供へ話して欲しいことが二つあります。それは、“経験”と“夢”です。思春期の子供はかなり考える能力が付いてきていますが、

最も不足しているのは経験です。親の経験を、生のまま、事実のまま伝えましょう。親の経験から得たことを整理して・まとめて、教訓や訓示にする必要はありません。なぜなら、子供の状況は、親の状況とは違いますから、その教訓や訓示が当てはまるかどうかは分かりません。しかし、事実としての経験は、子供にとって参考になります。聞いて考えて、どのような教訓を導き出すかは、子供の役目なのです。人生で最も大切なことは、自分で考えることです。自分で考えることができれば、自分で人生を切り開いていくことができます。

また、夢の重要な点は、その夢を達成することだけではなく、夢を語る時でも、夢に向かって行動する時でも、“ワクワク”することです。このワクワク感がヤル気の根源であり、人生のモチベーションなのです。そして、そのワクワク感他の人にも伝染します。親が子供に向かって「少年よ大志を抱け、おまえの夢は何だ」と尋ねる前に、親自身が夢を思い描き、子供に語ってみてください。親もイキイキしてきますし、子供も興味津々に耳を傾け、子供の夢を創り始めるでしょう。

“育てる”ことは、“信じ続ける”ことです。

“信じ続ける”ことは、“見続ける”こと、“聞き続ける”ことです。



Q

&

A

教えて、多賀先生！



多賀先生

Q

子供を感情的に叱る(しかる)、つまり怒ってしまった時、お母さんは素直に謝りましようと言われますが、そんなに簡単に謝ったら、親の威厳がなくなってしまうんじゃないですか？

A

そうでしょうか？ では逆に、謝らなかつた場合について考えてみましょう。直観力の高い子供たちは、うさんくさい怒り方だと感じています。そして、子供たちは「そうか、親や大人は子供に対して、力の強い者は弱い者に対して、地位の高い者は低い者に対して、理不尽な怒り方をしても謝らなくていいんだ」と考え、学び、覚えるのです。結果として、将来、同じような行動を取ります。一方、お母さんが素直に謝った場合、子供たちは「そうか、どのような関係であれ、自分が悪かつたと思ったら素直に謝ることが大切なんだ。そうすれば、いやな気持ちがないなあ」と考え、学び、覚えるのです。そして、将来、同じような行動を取ります。自分に非がある時には謝るとしての基本的姿勢を見せることとなります。

正に、「子供は親の鏡」ですね。

# 我が家の親子のコミュニケーション

## 親子で共通の趣味を楽しむ

(中1男子の父)

今年の春に息子が中学1年生になりました。小学校の時代と比べると、部活動や友だちとの時間が増えて、親と一緒に行動する時間が少なくなりました。これがあたりまえの事と思いつつ、少しずつではあるが大人になっていく息子との距離を感じる日々です。しかし、息子はまったく意識せずに私に接してくれます。それは多分、小学校1年生から一緒に始めた共通の趣味を通して得た経験が、お互いの壁を無くしてくれたのだと感じています。

その趣味は「自転車」です。小学校1年生の時から大人でも過酷な大会にいっしょに出場して完走したり、京都や大阪に自転車で旅に出てみると、無謀とも思えることを嫌がらずにチャレンジしてくれました。過酷な経験や達成感が息子を成長させてくれることはうれしいが、なにより良かったのは、道中にリラックスした環境の中で息子とたくさんの会話ができただけで、一番の収穫だと思っています。しかも過酷な状況下では親とか息子とかの立場は関係なく、お互いが助け合って前進します。体力がついてくる頃になると息子に助けられる場面が多くありました。

このような息子との経験で分かったことは、物事の大半は同じ目線でいっしょになって考え行動し、解決していくことの方が多かったということです。これからも自転車で培った感覚を忘れず、お互いに尊重し合い助け合い困難を乗り越え、一緒に達成感を満喫できるような関係でありたいと思っています。

## 娘の心遣いに助けられ

(中2女子の母)

私の娘は、中学2年。反抗期、思春期まっしぐらです。娘は次女で上に高校の姉がいます。小学校時代は、習い事に励み北陸大会にも出場、勉強も自学で頑張り成績も良い方でした。

しかし、中学1年で成績が下がっていき、学習塾を考えたのですが、姉に塾代がかかっていた為、次女はやれず心が痛みました。2年生になり自学で頑張っている娘に「塾、行きたい?」と聞いたところ「いい!」と言われ、私は、気を遣っているのか、本当の気持ちなのか分からないけれど、娘が自分でやると言ってくれたような気がして、娘に助けられた気持ちでした。

今の時代、塾もスマホもディズニーランドもあたり前ですが、娘は、どれも達成していないが、「いい!」と言ってくれた事がうれしかったです。

先日、キャリア体験が有り、保育園に行った娘は3日間ともクタクタの様子だったので、心配でしたが、意外にも「子供がかわいくて、楽しかった。」という感想を聞き、普段は大きな声で話さないのが大丈夫かと思ったが、外ではきちんとしているのかなあと思いました。

この先、娘がどのような仕事につくのか分かりませんが、目標を持ち、好きな仕事を見つけられる時が来ると良いなあと思うのと、本当はやさしい娘なのだと思います。

「来ないでよ」  
言ってるわりには 母探す  
てれくさいけどありがたい 日よう参観

鹿児島県鹿児島市  
中学校2年 牟田 あかね

お母さん ありがとうの一言が  
はずかしくて言葉に出せない  
だからだまって 食器を洗う

山梨県山梨市  
中学校2年 佐藤 巧人

あんたはな あんたのままでいいんやで  
他人(ヒト)の言うこと気にするな  
母の言葉に すくわれる

岐阜県高山市  
中学校2年 塚腰 歩未

同じように育てても 同じようには育たない  
子供の数だけ楽しみがあり  
子供の数だけ夢がある

鹿児島県鹿児島市  
一般 寶來 典恵

## 多賀先生の推薦する子育て参考書

### ●『見逃さないで！子どもの心のSOS：思春期にがんばってる子』（明橋大二：1万年堂出版）

子育ての中で一番むずかしいのが、思春期だと思います。ああ言えばこう言う、何もできないくせに、子供扱いすると怒る。子供の心の成長は、依存（甘え・従順）と自立（反抗・攻撃）の繰り返しです。そして、この頃から、依存する相手が両親から友達へ移行します。思春期に子供が親に対して反抗するのは、ちゃんと育ててきた・育ててきた証なのです。思春期のお子さんを持たれている親御さんや、今から子供が思春期に入る親御さんが読まれると、肩の力が抜けて、優しい気持ちで思春期の子供たちに接することができるようになるでしょう。

### ●『1歳から100歳までの夢』（日本ドリームプロジェクト：いろは書店）

1歳から100歳までの「普通の人」の「今の夢」が各ページ毎に写真入りで書かれています。小さな夢、大きな夢、近い夢、遠い夢・・・。他人の夢なのに、夢の話を知っている（読んでいる）だけで、こちらまでワクワク・ウキウキしてきます。「夢は人生の可能性だ」、あなたには今どんな夢がありますか？子供たちに夢を持って欲しいと願った時に、親も自分自身の夢を持ちましょう。夢を持たない大人ばかり見ては、子供が夢を持つようになりません。

## ◇家庭教育学級へのお誘い◇

### 子育て講演会



家庭教育学級は、育友会やPTAが中心となり、学校と協力して開設した学級です。会員相互の親睦を深めながら子育てについて話し合ったり、いろいろな講話を聞くことで、子育ての悩みを解消したり、子育ての力を高めていくのが大きな目的です。皆さんも積極的に参加してみましょう。

## 家庭教育講演会のお知らせ

●日 時 平成 28 年 2 月 13 日（土）  
15：00～17：00（予定）

●会 場 金沢市教育プラザ富樫

●講 師 多賀クリニック院長  
多賀千之 氏

※開催時刻・申込み等の詳細は

●金沢市広報新聞紙上掲載（1月）

●いいね金沢ホームページに記載（1月）

※問い合わせ先

金沢市教育委員会生涯学習課

家庭教育担当

Tel. 076-220-2441

Fax.076-220-2488

## 家庭教育の相談窓口の紹介

金沢市教育プラザ こども総合相談センター	①電話相談	お子さんや子育てに関する悩みごとについて、電話でお応えいたします。 (平日 9:00～21:00 土・日・祝日 9:00～17:00)	Tel.076-243-0874
	②こども専用 相談ダイヤル	子ども専用の通話料無料の相談電話です。 (平日 9:00～21:00 土・日・祝日 9:00～17:00)	Tel.0120-92-8349
	③いじめ電話相談	いじめに関する悩みごとについて、電話でお応えします。 (平日 9:00～21:00 土・日・祝日 9:00～17:00)	Tel.076-243-1019
	④虐待通報	子どもの虐待に関する通報を 24 時間体制でお受けします。	Tel.076-243-8348
	⑤児童相談所	18 歳までが対象です。相談内容は養護、保健、心身障害、非行、育成、虐待等です。(平日 9:00～17:45)	Tel.076-243-4158
金沢市家庭教育サポーター	身近な地域の家庭教育サポーターが相談に応じます。 (連絡先 金沢市教育委員会生涯学習課 平日 9:00～17:45)		Tel.076-220-2441

かなざわ家庭教育通信「かがやきプラス」は、家庭教育について考えていただく目的で発行しました。

年2回の発行を予定しています。家庭教育にご活用ください。

かなざわ家庭教育通信「かがやきプラス」へのご感想・ご意見がありましたら、下記までお知らせください。

〒920-8577 金沢市広坂 1-1-1 金沢市教育委員会生涯学習課 Tel.076-220-2441 Fax.076-220-2488

E-mail syougaku@city.kanazawa.lg.jp